

**【海上保安庁】投石から窓ガラスを保護する後付施工可能な手法の確立
(飛来物からの窓ガラスの確実な保護)**

課題の背景

日本EEZ内に侵入し、違法に操業する外国漁船が後を立たない中、当該違法操業の漁船に対する規制行動中、投石される場合があることから、防石ネットを船橋の窓に設置している。

しかし、当該漁船に対し規制放水を実施した際、放水の水しぶきが当該ネットに付着し、しずくが滴ることにより、視認性が極めて悪くなることがある。

さらに相手船が異常接近を試みるなど、不規則な操船を行うことから、放水中の視認性悪化に伴い、偶発的な接触の危険性が高まり、当庁船舶及び相手船に対し、安全上の懸念を生じさせている。

そこで、後付の施工により、投石に対して、窓ガラスに損傷を与えず、視認性を低下させない手法の提案が求められている。

また、この課題を解決する手法を応用し、防災、防犯や、物流等他分野への展開を図ることが強く望まれる。

求められる要件(機能要求・関連基準等)

- ・ 既存の窓に対し、後付の施工ができること。
- ・ 数十mの距離からのこぶし大の投石が命中しても、窓にヒビや割れを生じさせないか、生じても極めて小さいこと。
- ・ 過酷な海洋環境においても、はがれや腐食等が発生せず、最低5年は交換せず使用可能なこと。
- ・ 視界の歪みがなく、施工前と同等の視認性を維持すること。また経年劣化で視認性が低下せず、ワイパーの使用も可能なこと。